

すっかんぽ

1991年 7月号

塩原、大沼の モリアオガエル

泡状の卵をみつけた翌日、カエル好きの友人に“あたしゃ、とうとうみつけたよ。”という はやる気持ちを抑えながら 電話してみた。

---「(さりげない口調で) 実は、きのう、田んぼの中に 泡状のカエルの卵があったんだけど、もしかしたら シュレーゲル かなあ。」

友人「たぶん、そうだと思うよ。」(あれ、全然 おどろかないよ)

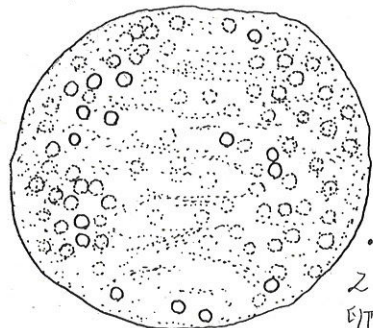
---「うん、まあ 偶然 みつけたんだけどね。でも、これ、て、け、こ、うめずらしい んでしょ。(お願い、そうだと、言、て……)」

友人「いや、シュレーゲルは どこにでも いるよ。(な、なんと……) 日本中に 分布してるはず。」(まさに 追いつく)

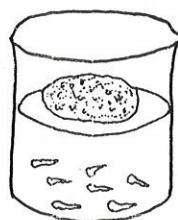
---「じゃ、ただ、今まで 気づかなかただけなのね」

友人「そういうこと。さがせば 田んぼの土手なんかで みつかるよ。」

---「や、ほりね。そんな気がしてたよ」(きのうの 喜び、て、い、たい……)



・開いてみた卵塊
2mmくらいのクリーム色の
卵が100個以上つまっていた



水のはいたビーカー
にのせておいたら
4日後に、
おたまじゃくしが
ふ化していた。

ところで、シュレーゲル と 姉妹種 とされている モリアオガエルの
方は、かなり 分布が 限られており、天然記念物に 指定されている
地方もある。栃木県内でも、何ヶ所かの池で 産卵が 確
認されている。その1つである、塩原の大沼での産卵もこの
機会に 観察してみることにした。ちなみに 大沼は、
鶏頂山 や ハンターマウンテン といった スキー場の 近くの 沼である。

5月25日 ----- この日は、別に、モリアオガエルが 目的 だったわけ
では なかったが、案内板には、5月下旬から、
6月下旬にかけて 産卵すると 書いてあった。
しかし、その 気配すらなし、水不足のためか
沼が 半分近く 干上がっていた。

6月8日 ----- 水位がさらに 下がっているようだった。
モリアオは、木に 産卵し、ふ化した おたまじゃくしは、
水面に 落下できなければ、ひから ひてしまう。
木、枝から 水辺 までは 10m 以上 離れていた。

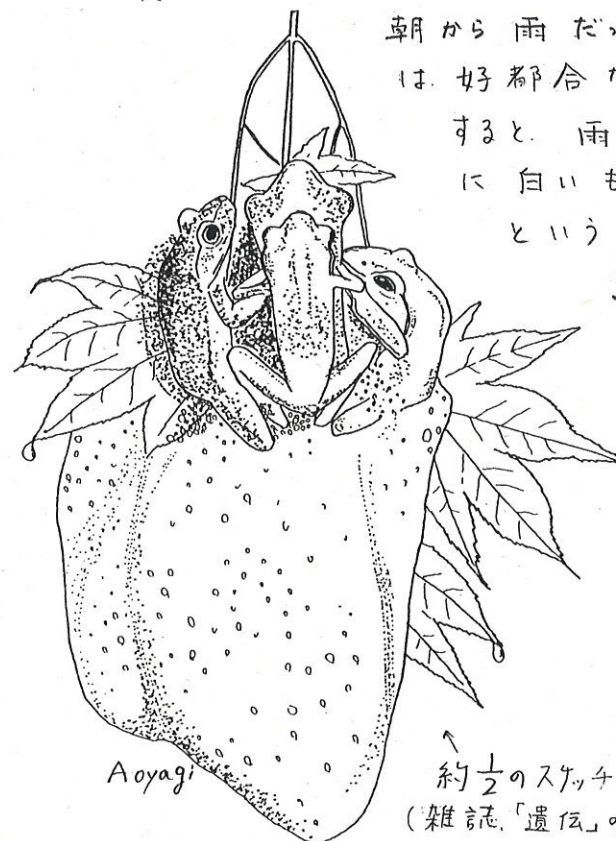
6月22日 ----- 前、週に 何日が 雨が 降り続いており、この日も
朝から 雨 だった。しかし、雨は、カエルにとって
は、好都合なので 期待していた。

すると、雨にかすんだ 沼の 村岸の、一本の木
に 白いものが みえた。もしかしたら……
という 思いで、走って かけよった。

近づくにつれ、それは 確信へと
変わっていった。しかも、予想
よりも、かなり 大きい。

案内板には、こぶし大とあった
が、それどころではない。

子供の 頭くらい の 大きさはある。
そういう 泡の 固まりが、全部で
10個あった。裏ページのスケッチは
ほぼ 実物大である。



約1/2のスケッチ
(雑誌「遺伝」の表紙の写真を模写したもの)

シュレーゲルの卵塊と比べて、格段に大きいのがわかると思う。しかし、泡の中はシュレーゲルと同じで、300~500の卵がありそうだった。

1つの泡は、1匹のメスに対し複数のオスが抱接する時、(ときには1対くらいになることもある。)

カエルの分泌する粘液を足でかき混ぜ、泡だたせることにより、できるのだが、2~3時間はかかる。産卵は夜の8時ごろから始まるらしい。

泡の中も調べると、卵はまだ発生が進んでいなかたので、昨夜あたり産卵されたと思われる。

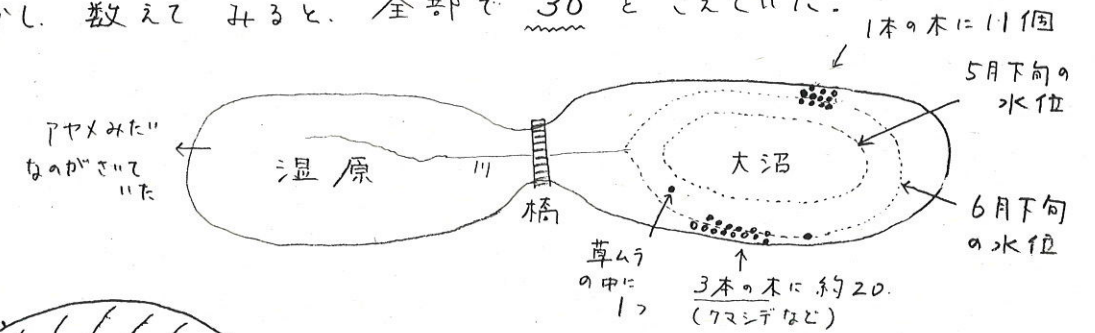
おそらく、この日の夜も産卵があると予想できるが、あしたは学校があるので、夜は断念し、佐野へもどった。

7月1日 --- 期末試験1日目の午後、

佐野を1時すぎにでて高速道路にのり、塩原インターで降りた。大沼に着いたのは、3時をまわっており、小雨が降っていた。

前回、卵塊の数は10個だったが、まあ、少なくとも20個にはなってるだろうと予想していた。

しかし、数えてみると、全部で30をこえていた。



沼の水位は、前回より約10cm上昇していた。しかし、ここの3日は雨が降っていなかたため、泡の表面は、かさかさにかわいており、ちょうど、カマキリの卵塊のような感触である。

こりゃ、中で干からびているかなと思て、少し割ってみたが、今にもふ化しそうな、おたまじゃくしが、うにうにしていたので一安心。

ただ、実際にふ化するには、卵塊の直下が土の所もあるので、最低2.3月中に、雨がふらなければ、死んでしまうだろう。

モリアオガエルにとって、その年の梅雨の降水量は、まさに死活問題なのであった。

親たちが卵塊をつくらせた時から、モリアオガエルの子どもたちの生存競争は始まっていたのである。

1991. 7. 1
Aoyagi